

【日本の大学】第 81 回——京都外国語大学：言語を通して世界の平和を

京都外国語大学（京都市右京区）は、第 2 次世界大戦後の混乱期（1947 年）に、国際理解の促進と世界平和の実現を願う創業者夫妻が京都に設立した外国語学校が始まりである。3 年後には短期大学を設置、1959 年には京都外国語大学を設立、その後、付属の高等学校や大学院、専門学校、研究所などを設けるなど、規模を拡大してきた。

建学の精神は、「言語を通して世界の平和を」であり、ラテン語で「PAX MUNDI PER LINGUAS」と表記し、国際社会で活躍する有能な人材を輩出したいという創業者の願いが込められている。

以下、京都外国語大学のホームページなどから、大学の歴史や現状を俯瞰していこう。

創業者は、森田一郎・倭文（しず）子夫妻である。一郎氏は福島県会津生まれ、中国人留学生のための東亜高等予備学校や芝浦工業専門学校などで数学を教えていた。倭文子氏は会津藩家老の妻を大伯母に持ち、小学校教師をしていた。二人は、終戦後の日本の荒廃した風土を目の前にして、その痛みと苦しみの中で「日本の再建には教育の確立、外国語教育の復活が何よりも必要である」と考えた。敗戦の中から世界の平和を願い、平和に外国との交流を望むなら、相互に意志を伝え合うコミュニケーションがカギを握り、そのための語学力が必須だと考え、外国語学校の設立に取り組んだ。



森田記念講堂

会津の縁で京都に開校

場所を京都に選んだのは、二人が会津藩の末裔であり、京都が会津藩主松平容保公と関係が深かったこと、有能な知己・友人を京都に持っていて、学校設立に力を貸してくれたことが大きかったようだ。学生時代の同窓生だった京都大学の田中美知太郎（名誉教授）や、恩師の小牧健夫など、一郎には京都の教育界に有力な知人がいて、それらかけがえのない人脈が学校創立時だけでなく、その後の教授陣の充実にも生かされた。

二人は 1947 年、大学の前身となる外国語学校を京都市左京区の一隅でスタートさせた。1950 年には京都外国語短期大学を設立、英語科（昼間部）を始め、2 年後には夜間部と教職課程を開設した。その 2 年後には京都予備校を、さらにその 2 年後（1956 年）短期大学英語商業科（昼間部）と専攻科（昼間部）を、その翌年には京都西高等学校（全日制普通科、商業科）開くなど、次々にその範囲を広げていった。

京都外国語大学が開設されたのは 1959 年のことである。短期大学の英語科、英語商業科、専攻科（いずれも昼間部）を廃止して、大学へと昇格させるとともに、大学には外国語学部英米語学科と教職課程を設置した。

その後、大学の体制の整備・充実を図った。1963 年に外国語学部にはイスパニア語学科を、66 年にはフランス語学科、67 年ドイツ語学科、ブラジルポルトガル語学科が開設されている。大学院の修士課程が設置されたのは、1971～72 年である。中国語学科の開設は 1974 年であった。

この間、米国や欧州で海外セミナーを実施したり、州立サンフランシスコ大学（米国）と国際交流協定を締結したりするなど、海外との関係も深めていった。1980 年には留学生別科も開設している。

現在大学は、外国語学部と 2018 年に開設された国際貢献学部の 2 学部と、短期大学、大学院外国語研究科（博士前期、博士後期課程）、留学生別科からなっている。

外国語学部は「学科の枠を越えたボーダーレスな学びで、多言語・多文化社会で活躍する力を」をうたい文句にしている。学科は、英米語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ブラジルポルトガル語、中国語、日本語、イタリア語、ロシア語、国際教養の 10 学科である。（国際教養学科は 2018 年から募集停止）



1号館

学べる外国語は全19言語

19の外国語の中から、学びたい言語を選択できる。まずは、専攻語を徹底的に学修し、外国語でのプレゼンテーションやディスカッションなどの対話型の授業を通して、語学力に加えて、国際舞台で通用する発信力を身につける。「聴く」「話す」「読む」「書く」の語学4技能を総合的に学ぶ。さらに専攻語以外の言語も修得する。質量ともに世界基準の外国語運用能力を備え、グローバル社会に必要なコミュニケーション能力を培う。

語学だけにとどまらず、「異文化理解力」をつけるため、専攻語圏の歴史、社会、文化などについて学ぶことにより、他者の育った背景を理解し、意見を尊重する力につなげる。世界中の人々と共生できる豊かな国際感覚を身につけ、グローバル社会で活躍するスキルを高める。

語学はあくまでツールであり、伝える手段である。重要なのは「教養」であり、伝える内容、何を話すのかが大切である。教育、歴史、経営、サービスなど、社会的ニーズに対応した幅広い分野における教養教育を展開。興味のある分野の専門家である専任教員を多く在籍させ、「広く、深く」学ぶことを可能にしている。

新入生は、総合科目「言語と平和」を学ぶことで、建学の精神である「言語を通して世界

の平和を」を理解し、4年間の学びの基礎となる社会的問題意識を喚起することから始まる。基礎ゼミナールでは、レポートや小論文の作成に必要な知識・手法など、大学で学ぶための基礎的な能力を養う。

続いて、19の言語から専攻語以外の外国語を選択して学べるように「専攻語科目・専門科目」に加えて「第2外国語科目」と「第3外国語科目」を配置している。専攻語は自分が所属する学科の言語であり、第2外国語は自分の専攻語以外の11言語（英、西、仏、独、ポルトガル、中国、伊、露、アラビア、オランダ、コリア）の中から選択する。さらに、第3外国語としては、それ以外の言語、すなわち、ラテン語、ギリシャ語、インドネシア語、トルコ語、インド語、タイ語、ベトナム語、スワヒリ語の8言語を加えた計19言語の中から選択する。

こうした言語力の強化に加えて、世界諸地域の言語や文化、社会について深く考察していく学修を実施している。グローバルかつ独自の視点から、さまざまな人々の活動の展開を学生自身が深く精緻に観察と考察を進める能力を養成する。グローバル・スタディ科目群とキャリア・スタディ科目群を設定し、グローバル群では、世界の言語や文化、社会について理解を深め、グローバルな視点で物事をとらえる力を伸ばす科目を充実させている。キャリア群では、社会・職業につながる6コースを設け、卒業後のキャリアに生かせる実践的な力を養成する。



4号館。国際交流とキャリアデザインの拠点。

国際貢献学部を創設

2018年に新設された国際貢献学部はグローバル社会で生きる力を育むことが狙いで、グローバルスタディーズ学科とグローバル観光学科の2学科で構成されている。学部のカリキュラムの中心を担うのが「コミュニティエンゲージメント」であり、実社会を学びの舞台とするプログラムである。学生たちが自らプロジェクトを計画し、社会の中で実践していくことで、異文化理解力やコミュニケーション能力を養う。1年次には専門科目を通じて自らの興味・関心の方向性を探りながら事前学習を重ねる。2年時の夏休み・春休みの4~6週間、国内外のコミュニティ（地域社会）を活動の場として、人々との協働を通じて、共通する課題（国連の掲げる17の持続可能な開発目標=SDGs）に取り組む。

2学科のうちグローバルスタディーズ学科には、国際機関やグローバル企業出身の先生が在籍しており、経験に裏打ちされた質の高い情報を得ることができる。ゲスト講師として国連職員や社会起業家を招くなど、貴重な話を聞く機会もある。グローバルな視点と高度な語学力、幅広い教養を備えた人材を養成。2年次からは、世界平和に関する知識と地球規模の課題解決に必要な力を学ぶ「国際協力コース」、ビジネスを通して社会に貢献する力を学ぶ「グローバルビジネスコース」のいずれかを選択する。



9号館・国際交流会館

17 もの世界遺産があり、日本を代表するようなグローバル企業の拠点でもある京都とい

う地理的特色を生かして現実さながらの体験型学習で実践的な経験を積むこともできる。また、約 30%が留学生という世界中から集まった学生と日本人学生が肩を並べてグループでプロジェクトに取り組み、活発なディベートを行いながら、国際経営学、経済学、デジタルリテラシー、持続可能な開発、環境政策、ピースデザインなどを英語で学修し、世界に通用する知識を身につけていく。

もうひとつのグローバル観光学科は、「多文化間交流」としての新しい観光を学ぶとともに、国際都市・京都という地の利を生かしたフィールドワークを行い、英語のコミュニケーション能力を身につけていく。観光学、経営学、政策科学、京都学などの多彩な学修を通じて、グローバルな視点からの環境の今日的な課題を理解する。1年次秋学期からは、文化政策としての観光を学ぶ「観光政策コース」と幅広い分野で観光ビジネスを仕掛ける「観光ビジネスコース」のいずれかを選択する。

大学では、学生交流などを目的として国内の3大学（神田外語大学、会津大学、長崎外国語大学）、海外は留学生の派遣、受け入れなどを目的とした40か国・地域の182大学と協定を結んでいる。（2022年10月現在）

来日する長期・短期留学生に対しては「留学生アシスタント制度」がある。外国人留学生が、スムーズに学校生活を送れるようにサポートすることで、日本人学生との密な交流ができるようにする。出迎え、宿舎の説明、キャンパスツアー、通学ルート案内、住民登録などの役所手続きのサポートなどを日本人学生が手助けしてくれる。

外国人留学生数は、外国語学部が79名、国際貢献学部が198名、留学生別科・交換留学生数は54名、大学院生は78名である。（2022年5月現在）

学生数は外国語学部が3421（うち女性2128）名、国際貢献学部が979（うち女性650）名である。専任教員数は外国語学部が100（うち女性29）名、国際貢献学部が27（うち女性12）名など、合計133（うち女性42）名である。

学長は小野隆啓氏である。サンフランシスコ州立大学大学院修了、京都外国語大学大学院外国語学研究科英米語学専攻修士課程修了、文学修士、1983年京都外国語大学外国語学部英米語学科講師、1987年同助教授、1996年同教授、同研究科長、学部長などを経て2022年8月から京都外国語大学・京都外国語短期大学学長。専門は言語学（生成文法）。

日文：滝川 進
写真：京都外国語大学 HP